

平成30年度学校自己評価システムシート (県立豊岡高等学校)

目指す学校像	地域に根ざし、豊かな人間性を培う進学校
--------	---------------------

重点目標	1 学力向上に向け、授業改善に取り組む 2 個々の生徒の進路希望に応じた指導を充実させる 3 基本的な生活習慣の改善を図るとともに生徒の自律性を養う 4 生徒会行事・部活動を充実させ、主体的な学校生活に取り組みさせる 5 開かれた学校づくりに取り組む
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	13名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		実 施 日 平 成 3 1 年 2 月 1 2 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	生徒が授業に臨む姿勢は、概ね良好である。進路実現に向けて、さらなる学力の向上のため、授業、豊高ゼミ、進学講習、家庭学習などにおいて、積極的な学びの定着と、「今未来手帳」の活用を通じた、自学自習の確立が課題である。	授業の予習復習を含めた家庭学習の定着や、休み時間の有効活用を促す。	①生徒の積極的な取り組みの機会を増やすための研修を行い課題の出し方等を含め、学習活動を工夫する。 ②「今未来手帳」の積極的な活用と下校時間の順守を通して、家庭学習の時間を確保し、定着を図る。 ③授業3ヶ条が学校(生活)に定着するよう、機会をとりえて生徒に呼びかける。	①生徒の積極的な取り組みを育成する授業改善ができたか。 ②「今未来手帳」を活用し、時間の管理等を含めた自己管理ができたか。 ③授業3ヶ条の励行を生徒に呼びかけたか。	目標が概ね達成できた。 ①研究授業や授業公開を行うと共に、ITの活用や対話的な学習を進める授業改善に努めた。 ②本校独自の手帳を生徒全員に持たせ学習時間の記録や学習状況の把握をさせた。 ③さまざまな機会を捉えて授業3ヶ条の励行を呼びかけた。	B	自己管理を徹底させると共に、積極的な自学自習や家庭学習の時間を増やす工夫が必要である。	生徒の予習復習をはじめとする家庭学習時間の向上など、意欲的な自学自習のための指導をどのように行っていくのか検討して欲しい。
2	生徒の進路希望は実に多種多様である。さらに、大学のグローバル化や入試改革が進行する中で、生徒の進路実現に向けた進路指導を行うためには、的確な進路情報の収集と集約・共有が必要である。様々な生徒の進路希望に対応したきめ細やかな進路指導の充実が課題である。	生徒の進路実現に向け、継続的な指導を行うとともに、指導力の向上を図る。	①生徒に対して適切なガイダンスを行うとともに、保護者に対しても説明会を行う。さらに職員向けの研修会も実施し、情報を共有する。 ②豊高ゼミやその他の進学講習など計画的に実施する。 ③研修会への参加や先進校視察等を通して、進路情報等を収集・整理し、進路指導に生かす。	①効果的なガイダンス・保護者説明会・職員研修が実施できたか。 ②進学講習等が計画的に実施できたか。 ③各種研修会や先進校視察により進路情報を収集し、指導に生かすことができたか。	①各年次で生徒に必要なさまざまなガイダンスを適切に実施することができた。また、保護者説明会も各年次に的確に対応したものができた。職員研修会も2月下旬に実施予定である。 ②豊高ゼミやその他進学講習については、年間160講座が開講され、計画的に実施できた。 ③外部団体が実施する各種研修会に積極的に参加し、得られた情報をさまざまな形で生徒に還元できた。	A	①生徒に対するガイダンスや保護者説明会、職員研修会の内容をより高めるため、さらに情報収集や研修を行っていく。 ②豊高ゼミや進学講習をさらに生徒が積極的に参加できるようにしていく。 ③現在、入試改革が進行中であるため、さらに情報収集に努め、有意義な情報を生徒に提供できるようにしていく。	多様な進路希望に合わせた各種講座の設置等の努力が順調に進路実現に好影響を及ぼしている。生徒の更なる希望進路実現に向けて、継続的な指導を期待する。
3	ここ数年、学校全体としての落ち着いた様子を見せており、生徒指導部の目標である「安心・安全な学校づくり」へ大きく近づいているようであるが、生徒個々の規範意識については、不十分な点も見られ、まだまだ予断を許さない状況である。	規範意識の向上に努め、継続的な指導の実施を図る。	①年次ごとに差異のない、統一基準に基づいた指導を行う。 ②各種検査・点検における事前・事後指導の充実を図る。	①登校時や授業時などで年次の枠を越えた声かけや指導が行えたか。 ②指導効果により各種検査・点検における指導対象者の数が減少したか。	目標がほぼ達成できた。 ①年次の枠を越えた積極的な情報交換により、統一的な指導を行うことができた。 ②規範意識の向上に伴い、指導対象者の数は、各年次とも減少傾向にある。	A	ここ数年、年を追うごとによい方向に向かってはいるが、ごく一部ではあるものの指導の成果がみられない(遅刻を繰り返す)生徒がいることや登下校時の服装(特に女子のスカート)には、多少の問題があるため、今後も継続的な指導の実践とその内容について精選していく必要がある。	生徒は落ち着いた学校生活を送っている。今後も日常的な指導を通じて、生徒事故の未然防止をお願いしたい。
4	新たな実行委員会組織による文化祭や球技大会がスタートして今年で3年目となる。引き続き、文化祭や球技大会を新たな実行委員会組織により更に定着・発展させる事、生徒会本部の組織改革が必要である。その改善が課題である。	各種実行委員会や生徒会本部を機能させ、行事等の円滑な運営を図る。	①LHRや委員会での指導を通じて、新たな組織での運営を更に定着させる。 ②生徒会本部や実行委員会の組織を見直し、引き続き改善を図る。	①新たな実行委員会組織がより定着したか。 ②生徒会本部や実行委員会の組織を見直し、継続して改善が図れたか。	①実行委員制が定着し、学校行事を活性化させることができた。 ②生徒会本部役員の構成を変更し、それに伴う活動の見直しを行った。本部役員と実行委員が協力して行事運営にあたることができた。	A	生徒会本部の構成を変更したことにより、新たな課題が見えてきた。次年度は、生徒会本部・実行委員会の活動や指導体制をさらに充実させることが必要である。	生徒会本部、実行委員会制度が順調に定着してきている。地域行事の運営に対し、部活動等、生徒の協力に感謝している。今後も地域との連携に積極的に取り組んで欲しい。
5	PTA後援会組織体制や事業計画等の活動に関して、検討や見直しが必要である。	PTA後援会組織体制や活動について、継続的な検討を図る。	①本部役員会議等への渉外担当者の積極的な参加と各分掌との連携により、PTA後援会組織体制や活動に関する話し合いを進める。	①組織体制や事業計画の見直しができたか。	目標がほぼ達成できた。 ①組織体制や事業計画について、本部役員と継続的な協議を重ね、活動の見直しを行った。	A	本部役員、各専門委員会、校内分掌、各年次と連携し、PTAの組織や運営に関する検討を継続して進める。	学校現状に適合した事業改善、組織改善がしっかりと行われている。今後もPTAと連携した校務の改善をお願いしたい。